

今年度の分析と改善について

I 全体の傾向

全体的にみると大きな低下はなく、多くの項目がやや上昇。

特に授業改善、生徒指導、学校生活の安全面に関する項目で向上が見られたが、基本的生活習慣の定着・ボランティア精神の育成などは改善があまり見られない。

1. 学校運営・教育活動に関する項目

学校全体の雰囲気の評価は向上傾向にある一方で生徒の挨拶など、基本的規範意識にかかわる項目がやや後退している。

2. 授業・学習に関する項目

授業の「わかりやすさ」は改善したが、生徒の主体性を問う項目は低下又は、横ばいである。

これは「授業改善は進んでいるが、生徒自身が学習方法を確立する段階に至っていない」状況と考える。

3. 特別活動・行事・学校生活・生徒指導

安全指導は向上している一方、自主性・社会性にかかわる項目（ボランティア）に変化が見られない。

4. 教育相談・道徳指導・保護者、地域との連携

保護者対応や情報提供は向上している一方、「生徒指導」「思いやり」「規律」など、生徒指導領域で課題が見える。

II 変化の要因として想定されるもの

1. 上昇した項目の要因

- ・授業改善の取り組みが浸透

ICT 活用、授業改善研修の実施 教員間の協働や授業研究

- ・学校行事・体験活動の再活発化

学校行事を精選し、学校活動が豊かになった

- ・学校だよりやすぐーるなどによる情報発信が強化された

2. 低下または停滞した項目の要因

- ・家庭での生活リズムの乱れが学校にも影響

スマホ時間の増加 就寝時刻の遅れ 生徒の集中力・挨拶・学習意欲の低下へ波及

- ・ボランティア精神・社会性を育てる機会の減少

様々な学校行事を運営する中で生徒主体活動が後回しになりがち

- ・学習意欲を高める取り組みが十分に届いていない

わかりやすい授業は増えても“生徒が自ら学ぶ”ための工夫が不足→探求・振り返り時間の確保

- ・日常の声かけが行き届かない場面があり、個に応じた対応が不十分であった。

Ⅲ 改善策

1. 学習意欲・主体性を高める施策

- ・授業の「発問」の質を高める研修 →生徒が考えたくなる・話したくなる問いを設定
- ・学習の振り返りのさらなる充実
- ・単元末に達成感を感じる工夫
- ・ICTを使った即時フィードバック

2. 規律・生活習慣の改善

- ・「挨拶強化週間」
- ・生活習慣チェックシートなどの実施（睡眠・スマホ・朝食など）

3. 社会性・ボランティア精神の育成

- ・小規模でも“自分が役立てた”経験を作る活動を計画（校内美化、地域連携ボランティアなど）
- ・総合的な学習の時間の充実（探求的活動とボランティアを連動する）
- ・生徒会が主体となる活動（集会等）の支援・発信を強化

4. 保護者・地域連携のさらなる強化

- ・学校の取り組みを丁寧に伝える。
- ・保護者向けアンケートの回答例や結果を学校だよりに共有する。

Ⅳ まとめ

◎学校全体の教育活動への評価は上昇傾向で、授業改善や安全指導、保護者地域連携が成果を上げている。

◎一方で生徒の自主性・社会性・生活習慣に関する項目で伸び悩みが見られ、生活習慣の乱れや活動機会の不足が背景にあると考えられる。

◎今後は生徒指導の一貫性を高めつつ、生徒主体の活動・探求的学びを強化することで学習意欲を高める方向性が有効である。